日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会
スポーツボランティア調査レポート

令和 5 年 3 月 22 日

公益財団法人日本スポーツ協会

JSPO
Japan Sport Association

目 次

1．概要 2
1-1．大会概要
1-2．大会ボランティア概要
2．取組 2
2-1．大会主催者（会場地市町・県競技団体）向け説明会
2-2．配置計画・募集・選考
2-3．決定・配置
2-4．ボランティア向け事前研修会
2-5．大会期間中の活動
2-6．振り返り
3．まとめ 10
3-1．大会準備段階でのポイント
3-2．大会期間中のポイント
3-3．大会終了後のポイント

1. 概要

1-1. 大会概要

大会名：日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会

会場地：岩手県下９市４町

開催期日：令和４年９月 22 日（木）～26 日（月）

＊開会式(前夜祭)：９月 22 日（木）

会期前実施　水泳：９月３日（土）～４日（日）

ゴルフ：９月７日（水）～９日（金）

実施競技：13 競技

水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、ゴルフ

参加者数：6,537 人

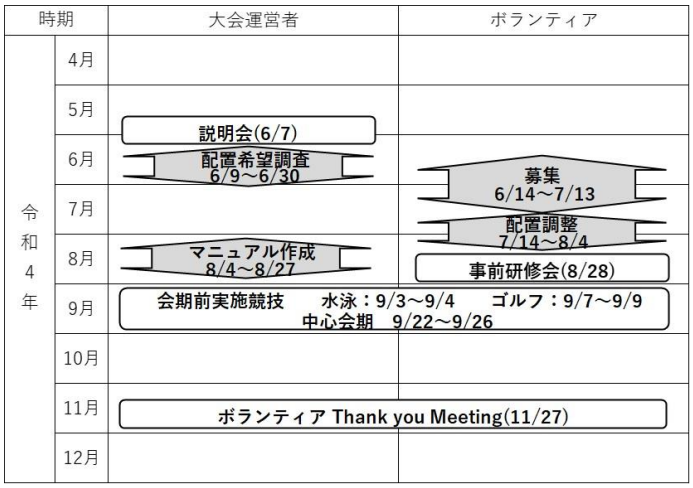
1-2. 大会ボランティア概要

全ての競技及び会場地市町でボランティアを導入し、大会のボランティア参加人数は、延べ 352 人であった。

応募条件	・平成 19 年４月１日以前生まれ（令和４年４月１日時点で 15 歳以上） ・大会実行委員会が指定するボランティア活動を行う人 ・活動場所まで、自身の用意する何らかの手段で集合・離散できる人
申込方法	①日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会公式 LINE ②大会実行委員会宛メールまたは FAX
申込期間	令和４年６月 14 日～７月 13 日
報酬・交通費等	スタッフユニフォームを支給。交通費及び飲食費等は自己負担。
保険	大会実行委員会が「ボランティア活動保険」に加入。
研修	ボランティアとして活動するための研修会を令和４年８月 28 日に開催。参加できない人には、資料送付で対応。

2. 取組

日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会(以下、岩手マスターズ)におけるスポーツボランティアに関する取組のスケジュールは、下表の通りである。



大会実行委員会におけるボランティアに関する取組スケジュール

2-1. 大会主催者（会場地市町・県競技団体）向け説明会

大会実行委員会が、各競技を主管する県競技団体と競技会会場でおもてなしをする会場地市町の担当者に対して、ボランティアを導入する理由、効果の理解を促す為の説明会を 6 月 7 日に実施した。

特に県競技団体にとってボランティアを導入することの目的を人手不足の解消ではなく、メンバーが固定化・高齢化した競技団体の活発化や競技の魅力を発信していくことにマインドチェンジすることを意図して企画した。説明会後の参加者の反応は、大会運営にボランティアを活用することについて賛成する競技団体があったが、他方で安全な大会運営のためにボランティア活用に対して消極的な競技団体もあった。

【説明会プログラム】

①基 調 講 演：神野幹也氏[EY ストラテジー・アンド・コンサルティング(株)]
「スポーツ関係人口の拡大に向けたボランティアとの協働について」

②事務局説明：・ボランティア募集の概要について
・ボランティアの配置希望調査について
・ボランティア関係スケジュールについて

大会主催者向け研修会風景

＊写真は岩手県の SNS から引用

2-2. 配置計画・募集・選考

大会実行委員会が、6 月 9 日～6 月 30 日にかけて県競技団体と会場地市町に対してボランティア配置希望調査を実施した。それを受け、県競技団体と会場地市町がボランティアの活動日、役割（係）及び人数を検討した後、回答した。

競技名	バスケットボール

競技団体記入例

日本スポーツマスターズ2022岩手大会　ボランティア配置希望調査票

【競技団体記入欄】

競技団体名	岩手県バスケットボール協会
担当者職氏名	△△　○○ ○○
担当者電話番号	○○○ー○○○○ー○○○○
担当者メール	○○○@○○.Jp

【市町村記入欄】

市町村名	
担当者職氏名	
担当者電話番号	
担当者メール	

No.	従事場所	係名	競技日ごとのボランティア配置人数						人数
			活動日	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	
			曜日	木	金	土	日	月	
				会場設営日	競技日	競技日	競技日	競技日	
1	盛岡タカヤアリーナ	受付案内係		2	2	2	2	2	10
2	〃	競技会場係		2	2	2	2	2	10
3	〃	会場美化係		2	2	2	2	2	10
4	〃	コロナ対策係(入場時検温)		1	1	1	1	1	5
5	〃	コロナ対策係(手指消毒呼びかけ)		2	2	2	2	ー	8
6	〃	コロナ対策係(会場内消毒)		2	2	2	2	ー	8
5	〃	○○係		2	2	2	2	ー	8
6	岩手県営体育館	受付案内係		2	2	2	2	2	10
7	〃	競技会場係		2	2	2	2	2	10
8	〃	会場美化係		2	2	2	2	2	10
9	〃	コロナ対策係(入場時検温)		1	1	1	1	1	5
10	〃	コロナ対策係(手指消毒呼びかけ)		2	2	2	2	ー	8
11	〃	コロナ対策係(会場内消毒)		2	2	2	2	ー	8
12	〃	○○係		2	2	2	2	ー	8
13	盛岡体育館	受付案内係		2	2	2	2	2	10
14	〃	競技会場係		2	2	2	2	2	10
15	〃	会場美化係		2	2	2	2	2	10
16	〃	コロナ対策係(入場時検温)		1	1	1	1	1	5
17	〃	コロナ対策係(手指消毒呼びかけ)		2	2	2	2	ー	8
18	〃	コロナ対策係(会場内消毒)		2	2	2	2	ー	8
19	〃	○○係		2	2	2	2	ー	8
									0
		合　計	0	39	39	39	39	21	177

No.	従事場所	係名	競技日ごとのボランティア配置人数						人数
			活動日						
			曜日						
				会場設営日	競技日	競技日	競技日	競技日	
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
		合　計	0	0	0	0	0	0	0

ボランティア配置希望調査票

Point

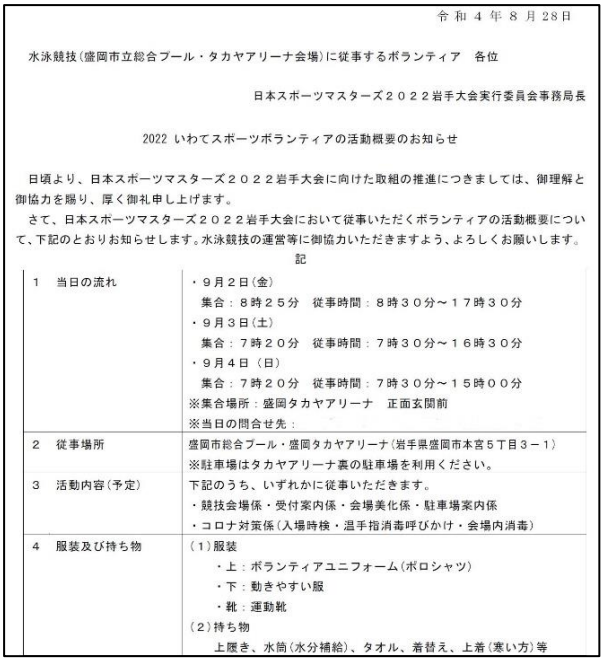
配置希望調査実施時に、大会実行委員会が回答の記入例（受付係、会場美化係、検温・消毒係、会場係等）を作成したことで、県競技団体や会場地市町はボランティアの役割（係）が検討しやすく、積極的な配置希望に繋がったと考えられる。

6 月 14 日～7 月 13 日にかけて行ったボランティア募集は、地元紙や広報誌、大会実行委員会のホームページや SNS 等で告知するとともに、「スポボラ.net[1]」も活用して広く告知した。また、岩手県が保有していた岩手県内で開催したラグビーワールドカップ 2019 日本大会と第 32 回オリンピック競技大会（東京 2020 大会）聖火リレーにおいてボランティアとして従事した人の情報を活用し、該当者[2]に対してメールでボランティア募集について案内した。

募集に際しては、気軽に応募できるよう応募者はボランティア活動を希望する会場地市町のみ選択することとし、その後、大会実行委員会が応募者に対して個別に活動可能日を確認し、活動日と活動場所（会場）を決定する流れとした。なお、応募者のボランティア参加動機からは、ボランティア活動を行う競技への拘りは見られず、自宅から会場までの距離（会場までの移動のしやすさ）から、会場地市町を選択する傾向がみられた。

2-3. 決定・配置

大会実行委員会が、応募者の「活動競技」「活動会場」「活動日」を決定し、応募者と県競技団体及び会場地市町へ結果を連絡した。決定通知書には、活動する競技・市町のボランティア担当者の連絡先も記載しており、決定後の変更やキャンセルは応募者から競技団体、会場地市町のボランティア担当者に連絡する体制となっていた。決定通知書に競技団体、会場地市町のボランティア担当者の連絡先を「当日の問合せ先」として記載することで、競技団体や会場地市町にとってボランティア運営を自分事化する意図が大会実行委員会にあった。



令和４年８月28日

水泳競技（盛岡市立総合プール・タカヤアリーナ会場）に従事するボランティア　各位

日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会実行委員会事務局長

2022 いわてスポーツボランティアの活動概要のお知らせ

日頃より、日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会に向けた取組の推進につきましては、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会において従事いただくボランティアの活動概要について、下記のとおりお知らせします。水泳競技の運営等に御協力いただきますよう、よろしくお願いします。

記

１　当日の流れ	・９月２日（金） 集合：８時２５分　従事時間：８時３０分～１７時３０分 ・９月３日（土） 集合：７時２０分　従事時間：７時３０分～１６時３０分 ・９月４日（日） 集合：７時２０分　従事時間：７時３０分～１５時００分 ※集合場所：盛岡タカヤアリーナ　正面玄関前 ※当日の問合せ先：
２　従事場所	盛岡市総合プール・盛岡タカヤアリーナ（岩手県盛岡市本宮５丁目３－１） ※駐車場はタカヤアリーナ裏の駐車場を利用ください。
３　活動内容（予定）	下記のうち、いずれかに従事いただきます。 ・競技会場係・受付案内係・会場美化係・駐車場案内係 ・コロナ対策係（入場時検・温手指消毒呼びかけ・会場内消毒）
４　服装及び持ち物	（１）服装 ・上：ボランティアユニフォーム（ポロシャツ） ・下：動きやすい服 ・靴：運動靴 （２）持ち物 上履き、水筒（水分補給）、タオル、着替え、上着（寒い方）等

ボランティア決定通知書

ボランティアの配置は、競技団体、会場地市町の担当者が、決定したボランティアの人数に基づき、再度、役割（係）を整理し、検討した。水泳競技を除き、配置希望人数に比べて応募者数が少なかったことから、大会実行委員会と会場地市町で調整し、会場地市町が運営する「おもてなし係」は公募したボランティアを活用せず、県競技団体が運営する役割（係）のみにボランティアを充当する市町があった。

---

[1] 特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワークが運営するスポーツボランティアのポータルサイト（https://spovol.net/）。

[2] ラグビーワールドカップ 2019 日本大会と東京 2020 大会の聖火リレーにおいてボランティアとして従事した人のうち、大会終了後もボランティアの情報提供を望まれた人を指す。

Point

ボランティア決定通知書に競技団体、会場地市町のボランティア担当者の連絡先を記載することで、競技団体や会場地市町にとってボランティア運営を自分事化することに繋がると考えられる。

2-4. ボランティア向け事前研修会

大会実行委員会がボランティアを対象に実施した事前研修会では、活動する競技・会場ごとに座席を配置し、大会当日に一緒に活動するボランティア同士が自己紹介をする時間を設けた。その後、資料として配布されたボランティア共通マニュアルに基づき説明がなされた。研修会終了後、参加者から「同じ競技、同じ会場でボランティアをする人と自己紹介をする時間があったことで、仲間意識が芽生えた気がした」「災害発生時、傷病者発生時、自分が怪我をしたり体調を崩したりした際の具体的なフローがわかって安心した」といった声が聞かれた。

Point

大会当日に一緒に活動する人と顔を合わせる機会を設けること、活動時の具体的な動きがわかる説明をプログラムに含めることで、参加者の満足度が高い研修会になると考えられる。

【研修会プログラム】

自己紹介：同じ競技・会場で活動するボランティアを5～6 人のグループに分けて実施

マニュアルに基づく説明：

- 大会概要
- 活動における心構え
- 共通連絡事項（服装・態度・緊急時対応）
- 一日の流れ

研修会での自己紹介

2-5. 大会期間中の活動

2-5-1. 開会式（前夜祭）

新型コロナウイルス感染拡大の影響で開会式（前夜祭）の開催形態が 8 月上旬まで確定できなかったことによりボランティアを活用しなかった。

Point

ボランティアの応募理由に「参加選手と交流できる」ことがあると考えられ、開会式（前夜祭）での一般受付や会場内案内、座席案内、閉会後の見送り等の役割（係）が、参加選手との貴重な交流機会であることから、ボランティアの導入が可能だと考えられる。

2-5-2. 水泳（会期前実施競技）

1 日あたり 40 人近いボランティアが「受付係」「検温・消毒係」「会場案内・会場美化係」「駐車場係」「表彰係」の 5 つの係に分かれて活動。当初は「表彰係」は予定されていなかったが、大会初日の朝に急遽必要となり対応した。岩手県水泳連盟の理事長がボランティア運営担当として、各活動日の最後に全体での振り返りミーティングを実施し、ボランティアから改善点や要望を聞き、翌日までに対応していた。

振り返りミーティング

Point

活動終了後に振り返りのミーティングを行い、ボランティアからの意見や提案を聞く機会を設けること、その中で対応可能なものは速やかに対応することで、大会運営の質が高まり、ボランティアのモチベーションも向上すると思われる。

2-5-3. テニス

1 日あたり 1～2 人のボランティアが活動。「駐車場係」または「総務係」を担当していた。大会開催前に、テニス競技の大会運営者が一堂に会して行われた打合せにボランティアも参加し、具体的な役割やタイムスケジュール等の確認が行われた。

2-5-4. バレーボール

1 日あたり各会場 6～8 人程度のボランティアが活動。係分けや具体的な活動内容は決められておらず、大会を運営するなかで人手が必要な作業（例えば、コートのラインテープ剥がし、抽選会前のパイプ椅子・テーブルの搬出、表彰式のアテンド等）が生じた際に、適宜、大会運営者から声がかけられて活動していた。大会初日はボランティアの控室が無い会場もあったが、途中から控室が準備され、ボランティアの活動環境が整えられた。

ラインテープ剥がし

2-5-5. バスケットボール

各会場、1 日あたり 1～2 人のボランティアが活動。主に「受付係」と「駐車場係」を担当していた。「受付係」では、会場地市町である盛岡市の職員と一緒に、大会プログラムや参加記念品を参加チームの代表者に渡す役割を担っていた。

2-5-6. ソフトテニス

活動場所の撤去

岩手県ソフトテニス連盟が運営するボランティアの配置は無く、会場地市町である北上市が運営する「おもてなし係」のみが、1 日あたり 3～4 人で活動。北上市特産のジュースや観光パンフレットを参加者に配布しており、最終日の競技会終了後は、活動で使用していたテントや机、椅子などの撤去を積極的に行っていた。北上市のボランティア運営担当者は、車移動が必要な距離にあるバドミントン会場の「おもてなし係」の運営も兼務しており、バドミントン会場に滞在することが多かった。そのため、ボランティア運営担当者とのコミュニケーションが希薄であったとの感想をもつボランティアがいた。

Point

大会運営者とボランティア間のコミュニケーションの頻度がボランティアのモチベーションに繋がると思われる。

2-5-7. バドミントン

選手集合所での消毒

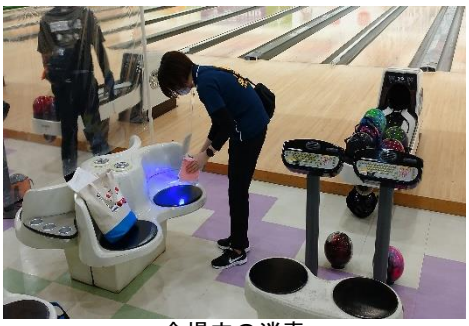
1 日あたり 10 人程度のボランティアが「コート整備係」「選手集合所係」として活動。「コート整備係」は、試合後のパイプ椅子等の消毒とモップがけが主な業務であり、「選手集合所係」は、招集が終了する度にパイプ椅子を消毒する業務が主な活動であった。また、連日 50 人を超える高校生が補助員として活動していた。さらに、会場地市町である北上市が運営するおもてなしブースでボランティア 1 人が、「おもてなし係」として活動していた。

2-5-8. 空手道

1 日あたり 7 人程度のボランティアが活動。ボランティアは、「受付係」と「駐車場係」に配置されていた。会期前実施競技である水泳でボランティアとして活動していた人が、空手道では競技役員としてボランティアに直接指示を出す立場で活動していたことから、自身のボランティアとしての経験を踏まえてボランティアへのきめ細やかな指示や説明を行っていた。水泳で一緒にボランティアとして活動した人が空手道でもボランティアとして活動していることもあり、円滑なコミュニケーションがとられていた。

2-5-9. ボウリング

1 日あたり 7 人程度のボランティアが活動。ボランティアは「受付係」と会場内の「消毒係」に割り当てられていた。会場内の「消毒係」は、ゲームとゲームの間に選手のプレーエリアの消毒を行うため、常にゲームを観戦することができた。会場内の「消毒係」ボランティアからは「初めて競技としてのボウリングを観戦し、自分もプレーしたくなった」との声が聞かれた。



会場内の消毒

Point

競技風景が見られる場所でのボランティア活動によって、競技を観たボランティアが当該競技のファンになることもある。

2-6. 振り返り

2-6-1. ボランティアの活動実績

岩手マスターズでは、全ての会場地市町及び実施競技において、ボランティアを導入した。各会場地市町、実施競技におけるボランティアの活動人数は、下表のとおりである。

競　技　名	会　　場	開催地	9月										
			2	3	4	7	8	9	22	23	24	25	26
			金	土	日	水	木	金	木	金	土	日	月
水泳	盛岡市立総合プール	盛岡市	25	48	39								
	盛岡タカヤアリーナ												
サッカー	遠野運動公園陸上競技場	遠野市							1	3	1		1
	遠野市国体記念公園市民サッカー場									1	2	4	3
テニス	盛岡市立太田テニスコート	盛岡市								2	2	3	2
バレーボール	花巻市総合体育館	花巻市							5	7	6	6	6
	紫波町総合体育館	紫波町								6			
	矢巾町民総合体育館	矢巾町								9			
バスケットボール	盛岡タカヤアリーナ	盛岡市								1	1		1
	岩手県営体育館									2	2	1	
	盛岡体育館									1			
自転車競技［トラック］	紫波自転車競技場	紫波町								5	4	5	
ソフトテニス	和賀川グリーンパークテニスコート	北上市									5	3	
軟式野球	楽天イーグルス奇跡の一本松球場	陸前高田市								1	3	3	3
	釜石市平田総合公園野球場	釜石市								2	4	4	2
	大船渡市営球場	大船渡市								2	2		
	住田町運動公園野球場	住田町								1	1		
	大槌町営野球場	大槌町								2	4		
	宮古運動公園野球場	宮古市								2	2	1	
ソフトボール	石鳥谷ふれあい運動公園	花巻市									1		1
バドミントン	北上総合運動公園北上総合体育館	北上市								12	11	12	
空手道	岩手県営武道館	盛岡市							3	8	8	7	
ボウリング	盛岡スターレーン	盛岡市							3	5	5	2	
ゴルフ	安比高原ゴルフクラブ	八幡平市				7	7	8					
		合計	25	48	39	7	7	8	12	72	64	51	19

ボランティア配置人数（実績）

2-6-2. ボランティア運営統括者（岩手県の担当者）による振り返り

(1) 県内開催スポーツイベントのボランティアへの直接連絡

『ラグビーワールドカップ 2019 日本大会でボランティアとして活動した人（約 700 人）と東京 2020 大会の聖火リレーでボランティアとして活動した人（約 550 人）に対して、予め同意を得たうえでボランティア募集の案内を E メールで送付した。ボランティア経験者に直接連絡することができるのは非常に効果的であった。他の都道府県でも聖火リレーでボランティアが活動したと思われるが、活動終了後も県から案内を送ることについて予め同意を得ておいたことが功を奏した。』

(2) 主催者による直接的なボランティアマネジメント

『様々なマネジメント方法がある中で、岩手マスターズは競技会場が多いためボランティアの大会当日のマネジメントは会場地市町、実施競技団体の担当者に依頼した。外部事業者に委託した方が、効率良く、担当者の負担を軽減することができるが、レガシーとして何も残らない。県民、市民を巻き込んで、トライ＆エラーを繰り返してボランタリズムを築き上げていくことが重要であると考えている。』

2-6-3. ボランティア運営担当者（岩手県バドミントン協会）による振り返り

(1) バドミントンを観ることを重視した配置計画

『今まで岩手県バドミントン協会では大会運営にボランティアを活用した経験はなかった。ボランティアの活用が決まった後、協会内で協議し、せっかくボランティアに来てもらうので、観戦できるようにマネジメントすることとし、ボランティアにコートに近い場所で活動してもらうため、選手集合所の消毒とコート整備（モップ掛け）を役割として依頼することにした。』

(2) ボランティア・リーダーの配置による効率的なボランティアマネジメント

『当初はボランティア・リーダーを配置する予定は無かったが、大会初日に JSPO からリーダーを活用すると担当者の負担が軽減するとのアドバイスがあり、大会初日に活動していたボランティアの中から東京 2020 大会のバドミントン競技のボランティア経験者をボランティア・リーダーに任命した。大会 2 日目からは、ボランティアのまとめ役としてコートの割り振り等の細かな指示をリーダーに出してもらい、リーダーでは判断できない指示は、協会の担当者が出すようにした。ボランティア集合時のミーティングの後に、ボランティア・リーダーが中心となりボランティアだけでミーティングをしている姿も見られた。』

2-6-4. ボランティアによる振り返り

(1) ボランティアの活動時間（シフト）

岩手マスターズのボランティアは、原則、活動が終日であったが、30 分～1 時間ごとに休憩をとるようなシフトになっていた競技もあり、「休憩が少なくても良いので拘束時間を短縮してほしかった」という声が聞かれた。

(2) ボランティア担当者とのコミュニケーション

県競技団体のボランティア担当者は、競技会運営の役割と兼務の場合が多く、ボランティアとのコミュニケーションが十分にとれないケースもあった。会場地市町のボランティア担当者も、市町内で複数競技を実施したり、単一競技でも複数会場での実施となることで、

各会場で活動するボランティアの様子を確認する必要があり、ボランティアとのコミュニケーションが希薄になっていた。ボランティアからは、「急に相談や確認が必要になった際に、連絡を取ることができず困った」との声があり、ボランティアの不満・不安に繋がっているように捉えることができた。

(3) 新たな競技との出会いの機会

多くのボランティアは自宅から会場へのアクセスのしやすさで活動場所を選ぶ傾向があり、役割を割り当てられた競技の経験者は少なかった。その結果、これまで実施したことが無かったスポーツを間近で観戦することができ、「自分も体験してみたい」と話すボランティアがいた。

3. まとめ

3-1. 大会準備段階（配置計画、募集、研修等）でのポイント

3-1-1. ボランティアを信頼し、より多くの役割に配置

ボランティアを活用した経験がない大会主催者は、ボランティアの活用に不安を感じる傾向があるが、活動意欲のあるボランティアに対して、活動の目的や内容を適切に伝えることで、ボランティアは想定以上の役割を果たすことが期待できる。これまでは競技団体関係者や学校部活動に所属する生徒等に任せていた活動を含め、ボランティアに任せる役割の幅を広げることで、地域のスポーツイベントをささえるボランティアの発掘・育成や新たなスポーツファンの獲得に繋げることができる。

3-1-2. ボランティアのやりがいを考慮した配置

ボランティアの中には、人とのふれあいにやりがいを感じる人が多い。自治体職員や競技団体関係者のサポート役としてボランティアを配置することで、大会主催者の負担を軽減しつつ、ボランティアに参加満足度の高い活動機会を提供することができる。

3-1-3. 大会前にボランティア同士がコミュニケーションをとる機会の確保

ボランティア経験の少ない人は、どのような人と一緒に活動するのか不安に思うことがある。ボランティア向け事前研修会の際に、同じ競技や同じ係のボランティア同士で自己紹介やアイスブレイクの時間を設ける等、活動日を迎えるまでにボランティア同士でコミュニケーションをとる機会を設けることでボランティアの不安解消に繋がる。

3-1-4. 活動内容によって前後半シフトを導入

炎天下での駐車場係や大きな競技会場におけるごみ回収係といった、体力が必要な係については、一日の活動を前後半のシフト制にすることで、ボランティアの負担を軽減することが可能である。こまめに休憩をとるシフトと比べてボランティアの拘束時間が短縮され、応募者の増加に繋がる可能性もある。他方で、ボランティア集合時の受付や説明、役割の引き継ぎといったボランティア担当者の業務が増加することにもなるため、慎重な検討が必要である。

3-1-5. ボランティア募集時の大会実行委員会と既存ボランティアバンクとの連携

大会実行委員会が、ボランティアを募集しても定員を満たせない可能性がある。そのため、

県内にあるプロスポーツチームのボランティアやスポーツボランティアバンク、大学のボランティアサークル、まちづくりや福祉関係といったスポーツとは関わりの薄いボランティアバンクに募集をかけることも有効な策となり得る。

3-2. 大会期間中のポイント

3-2-1. 活動終了時の振り返りミーティングが重要

大会期間中、ボランティア担当者は他の業務との兼務が一般的で多忙である。その結果、ボランティアが活動するうえで困ったことや、疑問に思ったことを気軽に相談できず、ボランティアが不安を感じることがある。活動中に可能な限りボランティアとコミュニケーションをとることが求められるが、各活動日の終了時に、振り返りミーティングを行い、課題整理や意見交換の場を設けることで、ボランティアの不安解消に繋がる。

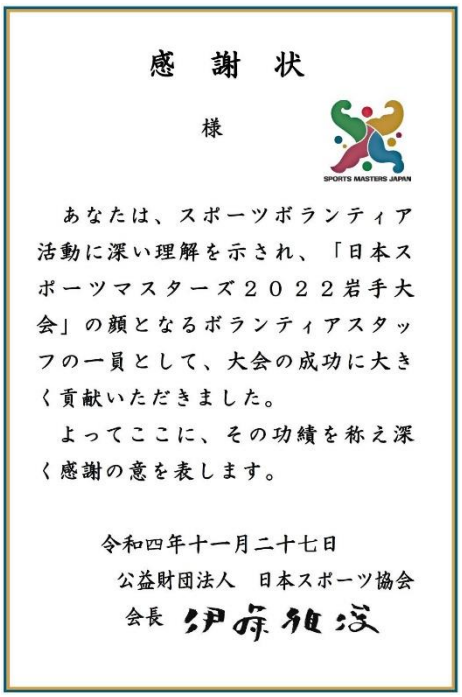
3-2-2. ボランティア・リーダーの配置

ボランティアの配置を計画する際に、活動現場においてボランティアを束ねるボランティア・リーダーを配置することで、大会主催者の運営負担軽減に繋がる。しかしながら申込情報だけでは、リーダーを担える能力や経験を有する人物かどうかを判断することは難しい。そのため、活動初日に活動の様子を見てリーダーを任せられる人を見つけるのも一つの手法である。

3-3. 大会終了後のポイント

3-3-1. 大会主催者からボランティアへ感謝の気持ちを伝える

大会期間中はもちろん、大会終了後にもボランティアへ感謝の気持ちを伝えることで、活動の満足度がより向上し、ボランティアの活動の継続に繋がる可能性が高まる。岩手マスターズのように「Thank you Meeting」を開催し、大会主催者の役員からビデオレターで感謝を伝えたり、感謝状を手渡しすると良いが、その様な機会を設けることが難しい場合は、感謝状を郵送するといった方法もある。しかし、(当日欠席を把握しきれず) ボランティア応募者全員に郵送した場合、活動日に参加できなかったボランティアにもお礼状や感謝状を送付してしまうことが起こり得るため注意が必要である。



感　謝　状

様

SPORTS MASTERS JAPAN

あなたは、スポーツボランティア活動に深い理解を示され、「日本スポーツマスターズ２０２２岩手大会」の顔となるボランティアスタッフの一員として、大会の成功に大きく貢献いただきました。

よってここに、その功績を称え深く感謝の意を表します。

令和四年十一月二十七日

公益財団法人　日本スポーツ協会

会長　伊藤雅俊

「Thank you Meeting」の様子

記録ムービー上映

ビデオレター上映

感謝状贈呈

懇談

3-3-2. ボランティアからのフィードバック機会

ボランティア運営の検証やノウハウの蓄積のためにボランティアを対象にアンケート調査を実施することが望ましい。大会期間中、ボランティア担当者は活動中や活動終了後の振り返りミーティングで様々な話を聞くことで課題を把握できる。しかし、定量的に評価したり、様々な経験を有するボランティアによる振り返りに触れることで新たな課題の発見が期待できる。

3-3-3. ボランティアの定着に向けた取組

日本スポーツマスターズをはじめとしたスポーツ大会・イベントの開催を契機に集まったスポーツボランティアの開催県や会場地市町への定着化の方向性として、以下のようなパターンがあると考える。その地域の実状に沿った形での定着化を目指すことがポイントである。

(1) 既存ボランティアバンクの活用

県や市町には、既にスポーツボランティアバンクだけでなく社会福祉協議会やまちづくりに関する人材バンクが設立されていることが多い。例えば民間では、Ｊリーグや Ｂリーグといったプロスポーツチームのボランティア組織等もある。スポーツ大会・イベントの際に集まったスポーツボランティアの既存ボランティアバンク等への登録を促進し、活用を促すことで、ボランティアの定着に繋がる。併せて、活動が停滞しているボランティアバンクの活性化の契機になると考えられる。

(2) スポーツボランティア情報の保有と活用

スポーツ大会・イベントの際に集まったスポーツボランティアの連絡先情報（Ｅメールアドレス等）を県や市町などの大会主催者が保有し、スポーツボランティアの活動機会がある

度に、協力依頼を発信することで、ボランティア活動の機会を継続的に提供することができ、ボランティアの定着に繋がる。

(3) 新たなスポーツボランティア組織の設立

スポーツ大会・イベントの際に集まったスポーツボランティアが発起人（中心人物）となり、スポーツボランティア組織を立ち上げることで定着化を図る。組織立ち上げの際は自治体に伴走してもらうこともある。組織の形態も任意団体の他、一般社団法人や特定非営利活動（NPO）法人等の法人格を取得するなど様々だが、組織があることでボランティアの登録が可能となり、組織的にボランティア活動に取組むことができ、ボランティアの定着に繋がる。

以上のような取組によってボランティアの定着を図ることが可能であると思われるが、いずれの取組においてもボランティアの募集前や活動中からの下準備が必要である。ボランティアの連絡先情報を大会終了後も利用するためには、個人情報の取得時にその旨了承を得る必要がある。また大会終了後にボランティア組織を立ち上げるのであれば、事前研修会や活動中に一人でも多くの発起人（中心人物）になり得る人の目星をつける必要がある。このような大会終了後を見据えた準備が求められる。

公益財団法人日本スポーツ協会　総合企画委員会　スポーツボランティア部会

部会長　　工藤 保子（大東文化大学）

部会員　　齋藤 道子（NPO 法人うつくしまスポーツルーターズ）

澁谷 茂樹（公益財団法人笹川スポーツ財団）

但野 秀信（NPO 法人日本スポーツボランティアネットワーク）

田中 正男（NPO 法人湘南マリンオーガニゼーション）

発行

公益財団法人日本スポーツ協会　イノベーション推進室